

日本原子力学会標準委員会リスク専門部会レベル 3PRA 分科会

第 25 回会合議事録

日時：2016 年 11 月 15 日（火）13:30～17:30

場所：日本原子力発電（株）本店 第 4 会議室

出席者：

委員：本間主査(JAEA) (14:00 から参加)、成宮幹事（関電）、木村幹事（JAEA）、喜多（東電）、石川（CTC）、伊藤(原電)、湊（日立 GE）、斯波（JANUS）、橋本(電中研)、田原（東芝）、津崎（電中研）、泥谷(NEL)、堀(MHI)、向原(TEPSYS)、龍福(VIC)
15 名出席

常時参加者：鈴木（規制庁）、武部（原燃）、野村（関電）、松本(NESC)、楠木(INSS)、中村(電中研)

6 名出席

配布資料：

P8SC25-1：第 24 回 レベル 3PRA 分科会議事録（案）

P8SC25-2：公衆審査の結果について

P8SC25-3-1：誤記チェック結果について

P8SC25-3-2：誤記チェック対応表

P8SC25-3-3：標準文案（公衆審査版）

P8SC25-4：ASME JIWG 第一回会合報告

P8SC25-5：転載許諾リスト

P8SC25-6：レベル 3PRA 分科会 標準改定スケジュール（案）

参考資料：

P8SC25-参考 1：レベル 3PRA 分科会 名簿

議事：

1. 定足数の確認、配布資料の確認

開始時点で委員 20 名中 14 名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが確認された。

2. 前回議事録の確認 (P8SC25-1)

前回（第 24 回）議事録の内容を確認し、了承された。

3. 誤記チェック及びその対応について (P8SC25-3-1、P8SC25-3-2、P8SC25-3-3)

レベル 3PRA 標準改定案に対する誤記チェックの内容と対応について審議が行なわれ

た。主な決定事項と議論は以下のとおり。

Q：標準委員会への報告で、誤記チェック対応表（添付 2）は、誤記チェックの結果としてつけるのか。

A：公衆審査後に修正する箇所を審議してもらう必要があるので、つけるべきだと考えている。

(1) コメント No.全-1

参考文献の引用の仕方について、**JIS** 規格を確認した上で、修正内容を検討すること。

C：引用先自体が間違っているわけではないため、現在の書き方でも問題ないと認識している。

(2) コメント No.4-7

「品質保証活動」の箇所のみ明朝になっているため、ゴシックに修正すること。

(3) コメント No.6-2

備考欄を修正すること。「半角，＋スペース」→「全角，」

(4) コメント No.7-1

コメント箇所以外にも「降雨率」「降水量」等の表現があるため、他を調査・再整理した上で修正すること。必要があれば、メール等で議論を行っていく。

C：規定番号 **6.2** 以外にも降水量等の記述が存在する。

(5) コメント No.8-1～8-5

修正案（正）について、拝承された。

C：参考の内容によっては、「段落全体」にかかっているため、注意が必要である。

(6) コメント No.12-4

Q：修正案（正）中「～には以下のようなものが含まれる。」の「ようなもの」という表現は不要ではないか。

A：拝承。表現を「～には以下のようなものが含まれる。」から「～には以下が含まれる」に修正する。

(7) コメント No.13-2

C：**P19** の **13.3** の最終段落に「。」が2つ存在するため、修正すること。

A：拝承

(8) コメント No.14-2

C：修正案（正）の「～パラメータ値など」の「など」をとること。

A：拝承

(9) コメント No.15-6

C：「詳細な」「基本的な」の表現にはそれぞれ意味があるため、本コメントは削除する。

A：拝承。

(10)コメント No.B-2

Q: 前回に似たような議論が有り、コードマニュアルを参照することとなっていたと理解。

A: 他と齟齬がなければ、オリジナルの **NRC** の文献を引用すれば良いと考えている。

Q: 文献名は、斜字体という認識だったが、いかがだろうか。

A: 他の分科会で、斜字体としていた所があったと思うが、本標準では斜字体で統一を行っていないが、標準作成の手引きで確認する。

(11)コメント No.B-3

C: 意味合的に原文が正しいので、修正する必要無し。

A: 拝承。

(12)コメント No. B-5

表 **B-3** の記載も合わせて修正すること。

(13)コメント No.B-7~B10

前期遷移元素類に対応する **MACCS2** 側の核種グループを、ルテニウム類とランタン類の **2** 段書きにし、**Nb** はそのランタン類に分類すること。

(14)コメント No.C-1

C: 当該箇所の説明は、エアロゾルの説明を行っているため、エアロゾル(粒子状物質)の括弧書き内容は不要だと考えられる。よって、本コメントは、対応不要。

A: 拝承。

(15)コメント No.D-2

C: 本コメントは、意味合いが変わるため、対応不要。

A: 拝承。本コメントは、削除する。

(16)コメント No.E-4, E-5, E-6, E-8, E-9, E-11

本コメント (**Z=0**) はペンディング。引用した文献及び筆者に意図を再確認した上で、再検討すること。

(17)コメント No.G-2

C: 文章が分かりづらい為、修正すること。「及び」「又は」「並びに」が多く入る文章では、内容を明確化するのであれば、箇条書き等が妥当だと考えられる。

A: 拝承

(18)コメント No.I-4

C: 修正案(正)の「自宅、職場又は学校、乗り物、屋外」を「**A, B, C, 及びD**」の形で修正すること。

A: 拝承

(19)コメント No.I-17, I-24

C: 「めやす」は公文書等で、ひらがな表記であり、ひらがな表記で統一すべきはないか。

A:「めやす」は、ひらがな表記で統一することとする。拝承。

(20)コメント No.J

Q:規定番号 J だけ図表が本文中に入っている。図表は、文末であると考えていたが、本文中に入っていることで良いだろうか。

C:基本的には、図表は文末に持っていく方向だと思うが、区切り等が悪ければ、本文中でも良いと考えている。

A:図表は文末に持っていく方向で修正する。

(21)コメント No.J-19

C:「EPA 改訂モデル～」 「EPA 改訂案 2001」の文献を引用すること。

A:拝承

(22)コメント No.K-8

修正としては、原文の括弧書きを外すこととする（修正案（正）は、対応不要）。

(23)コメント No.L-4

C:本文中「大気拡散及び沈着、被ばく線量及び健康影響のモデルによる一連の評価で～」において、「及び」にはそれぞれ意味がある。

A:拝承。修正案としては、「大気拡散及び沈着、被ばく線量、及び健康影響のモデルによる一連の評価で～」

(24)コメント No.M-34

Q:コメント No.M-34 だけ、分類項目②としていることに対してよいか？

A:本記載は附属書（参考）であること、ユーザーが活用する際には、転載元の文献を参照するであろうことを踏まえて分類は③としたい。

(25)コメント No.解 4-4

解説 4.1 は、対応案通り修正すること。なお、「1.適用範囲」は文書の適正化として、以下の通り、修正すること。

誤:「～起因する公衆の健康影響及び線量を低減～」

正:「～起因する公衆の健康影響、及び線量を低減～」

(26)コメント No.解 5-1

用語として「福島第一原子力発電所事故」に統一すること。

(27)その他のコメントについて

(1)～(26)以外のコメント No.について、修正案（正）又は対応案について、拝承された。細かい修正については、今後メールでのやり取りで議論・対応していく。

4. 公衆審査結果について (P8SC25-2)

レベル 3PRA 標準改定案に対する公衆審査結果の対応について議論が行われた。議論の結果、「対応案 2」とすることとした。今後は、リスク専門部会及び標準委員会にて意見を頂く予定。

5. MACCS2 コードの入手について

MACCS2 コードの入手について、規制庁より説明が行われた。主な内容、議論は以下の通り。

- ・MACCS2 コードに関して、NRC-規制庁で結んでいる協定は、原子炉安全研究・許認可の目的。
- ・事業者がMACCS2 コードを使用する場合、NRC と別途協定が必要である。
- ・大学等における研究目的での使用の場合、規制庁と NRC で結んだ協定で問題ないという認識。
- ・MELCOR コードも同様の扱いである。
- ・ライセンスの契約、取得について独自に動き出している事業者がいることも認識している。

6. ASME JIWG 第一回会合報告(P8SC25-4)

ASME JIWG 第一回会合の内容について、成宮幹事より紹介が行われた。当分科会の JIWG 代表である田原委員に JIWG で議論したいテーマを送ることとした。

7. 転載許諾リスト(P8SC25-5)

転載許諾リストについての報告が野村常時参加者から行われた。転載許諾リストの未入力部分についての文献を持っている場合は、野村常時参加者に連絡することとなった。

8. 今後のスケジュール他 (P8SC25-6)

11 月 24 日のリスク専門部会に報告を行うため、誤記チェック対応表及び標準文案の修正についての期日は、以下の通り。

誤記チェック対応表	: 11 月 18 日 (金)
標準文案	: 11 月 21 日 (月)

修正案は、野村常時参加者に連絡することとなった。

今回でレベル 3PRA 標準改定に向けた議論は終了。次回分科会は実施する場合は、年度末を予定。

9. 倫理教育の実施

本分科会后、倫理教育を実施した。

以上